

決算説明資料

2025年3月期 第3四半期

株式会社ユビキタスAI

代表取締役社長 長谷川 聡

2025年2月14日



© 2025 Ubiquitous AI Corporation. All rights reserved.
This presentation is for informational purposes only. Ubiquitous AI Corporation makes no warranties, express or implied, in this summary.

- 2025年3月期 第3四半期 業績 概要
- セグメント別概況と注力テーマ
- トピックス

2025年3月期 第3四半期 業績 概要

2023年10月に子会社化したグレースシステム社（GS社）の売上が寄与し、連結売上高は対前年同期比で+25.6%の大幅増となったが、一部顧客のロイヤルティ売上減少、M&Aに伴う人件費、会社規模拡大に伴う内部統制の整備・運用など販管費の増加により、営業損失額は増加

連結売上高：2,637百万円
(対前年同期比：25.6%増)

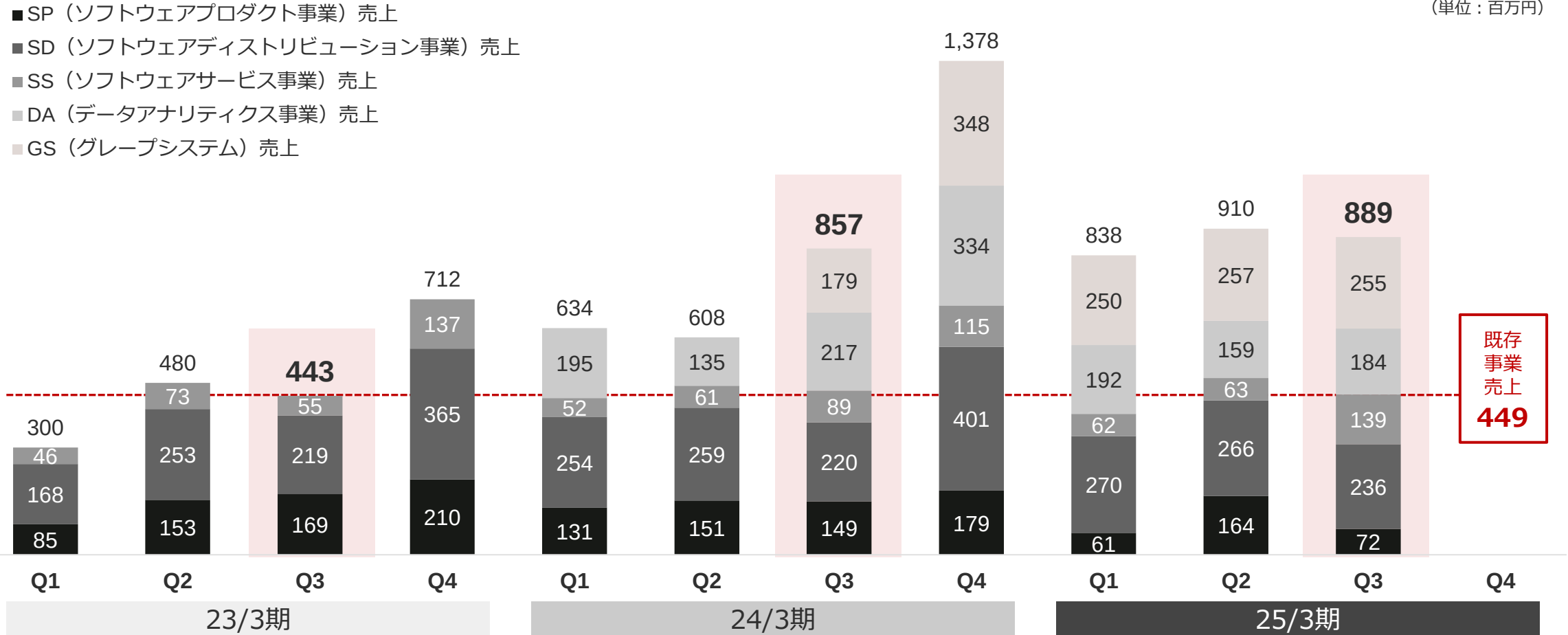
連結営業損失：131百万円
(前年同期営業損失：87百万円)

※GS社の業績値はデータアナリティクス事業以外に按分

事業セグメント	(単位：百万円)	25/3期 Q3累計	24/3期 Q3累計	概況（対前年同期比）
ソフトウェアプロダクト事業	売上高	472	455	GS社のロイヤルティ売上増加より売上高は増加したが、自社製品の売上および利益の減少により、営業損益悪化
	営業損益	△161	9	
ソフトウェアディストリビューション事業	売上高	932	743	既存顧客からのロイヤルティおよび受託開発、既存顧客向けライセンス売上の前倒しに加えて、GS社取扱い海外製品の売上分の追加により、売上高が対前年同期比で増加、営業損益改善
	営業損益	△52	△78	
ソフトウェアサービス事業	売上高	696	352	既存事業の受託開発売上が好調、GS社売上追加が大きく寄与、対前年同期比で売上高・営業利益ともに大幅増
	営業損益	87	△20	
データアナリティクス事業	売上高	536	548	一般企業および政府機関へのパッケージソフト売上増も、教育機関向けのパッケージ売上減。為替の影響を受け営業損失（前年同期はスポットで発生した大型案件が存在）
	営業損益	△4	2	

四半期別 売上高の推移

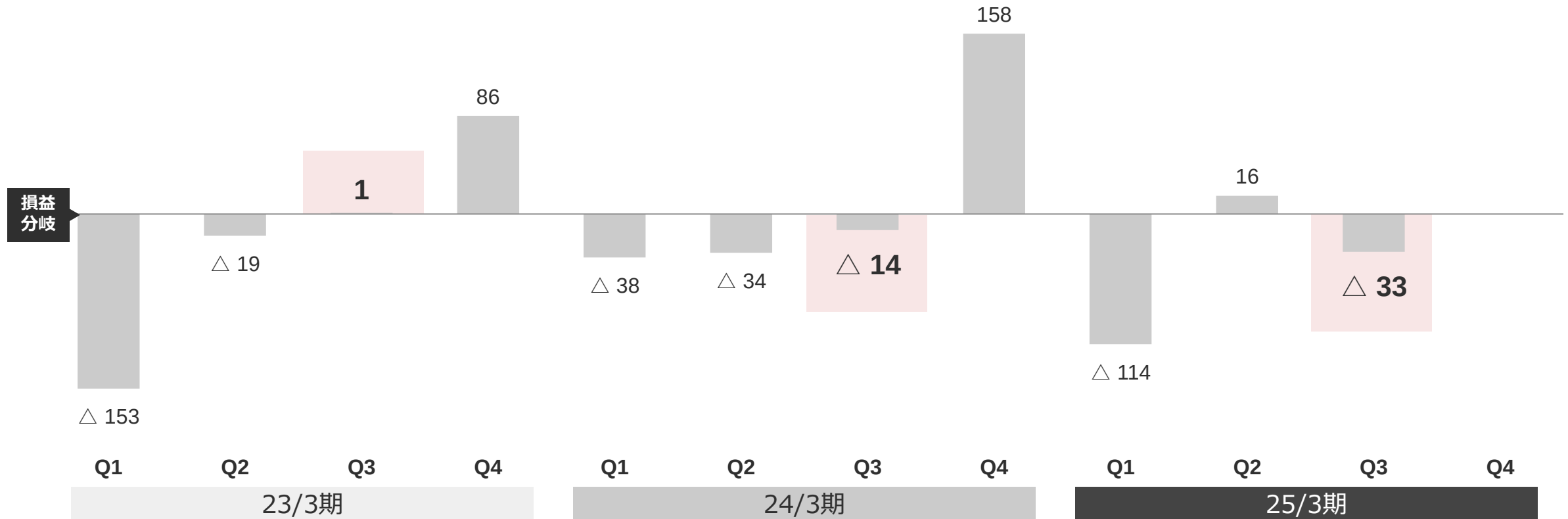
一部顧客のロイヤルティ売上減によりSPが減少するも、SD、SS、GSの売上増により、QoQでは+3.7%となった



四半期別 営業損益の推移

SPにおいて一部ロイヤルティ売上の減少が影響するも、SD、SSの売上増により、33百万円の営業損失となった

(単位：百万円)



対前年同期比:セグメント別売上及び利益

2023年10月に子会社化したGS社の売上が寄与し、売上高は対前年同期比+25.6%の大幅増、特にSS事業は+97.5%と大幅増

SP事業のロイヤルティ売上減少、M&Aに伴う人件費、企業規模拡大に伴う社内整備費用などが増加し営業損失は増加

(単位：百万円)		25/3期 Q3累計			24/3期 Q3累計		
		従前の セグメント	グレープ システム	連結	連結	増減額	増減率
ソフトウェアプロダクト事業	売上高	299	172	472	455	+16	+3.7%
	セグメント利益	△167	※2 5	※2 △161	※2 9	△170	-
ソフトウェア ディストリビューション事業	売上高	773	159	932	743	+189	+25.5%
	セグメント利益	△55	※2 3	※2 △52	※2 △78	+26	-
ソフトウェアサービス事業	売上高	265	430	696	352	+343	+97.5%
	セグメント利益	79	※2 8	※2 87	※2 △20	+108	-
データアナリティクス事業	売上高	536	-	536	548	△12	△2.2%
	セグメント利益	※1 △4	-	※1 △4	※1 2	△7	-
合計	売上高	1,874	762	2,637	2,100	+537	+25.6%
	営業利益	※1 △148	※2 17	※3 △131	※3 △87	△44	-

(注) ※1 株式会社ライトストーンの株式取得に関して生じたのれんの償却額 29百万円を含めております。
※2 株式会社グレープシステムの株式取得に関して生じたのれんの償却額 41百万円（24/3期は13百万円）を含めております。
なお、当該のれん償却額は、同社が営むデータアナリティクス事業以外の各事業に按分しております。
※3 上記ののれんの償却額 70百万円（24/3期は43百万）を含めております。

対前年同期比:セグメント別売上及びのれん償却前営業利益



積極的なM&Aによる事業拡大に伴い、のれん償却額は増加傾向
「のれん償却前営業利益」は△60百万円となり、対前年同期比で損失額微増

		25/3期 Q3累計					24/3期 Q3累計				
		従前の セグメント		グレープ システム		連結	連結		増減額	増減率	
(単位：百万円)											
ソフトウェアプロダクト事業	売上高	299		172		472		455		+16	+3.7%
	セグメント利益	△167		※2	12	※2	△154	※2	10	△164	-
ソフトウェア ディストリビューション事業	売上高	773		159		932		743		+189	+25.5%
	セグメント利益	△55		※2	7	※2	△48	※2	△78	+30	-
ソフトウェアサービス事業	売上高	265		430		696		352		+343	+97.5%
	セグメント利益	79		※2	38	※2	117	※2	△7	+125	-
データアナリティクス事業	売上高	536		-		536		548		△12	△2.2%
	セグメント利益	※1	24		-	※1	24	※1	32	△7	△24.4%
合計	売上高	1,874		762		2,637		2,100		+537	+25.6%
	営業利益	※1	△119	※2	59	※3	△60	※3	△44	△16	-

(注) ※1 株式会社ライトストーンの株式取得に関して生じたのれんの償却額 29百万円を含めておりません。
※2 株式会社グレープシステムの株式取得に関して生じたのれんの償却額 41百万円（24/3期は13百万円）を含めておりません。
※3 上記ののれんの償却額 70百万円（24/3期は43百万）を含めておりません。

対前年同期比：売上高（セグメント別及び形態別）

事業セグメント別では、対前年同期比で+343百万円と伸長したSS事業が売上高拡大を牽引
形態別では、ロイヤルティ売上が減少したが、GSの売上分が寄与、契約時一時金売上が+145百万円、受託開発売上が+358百万円と大幅に増加

事業セグメント別

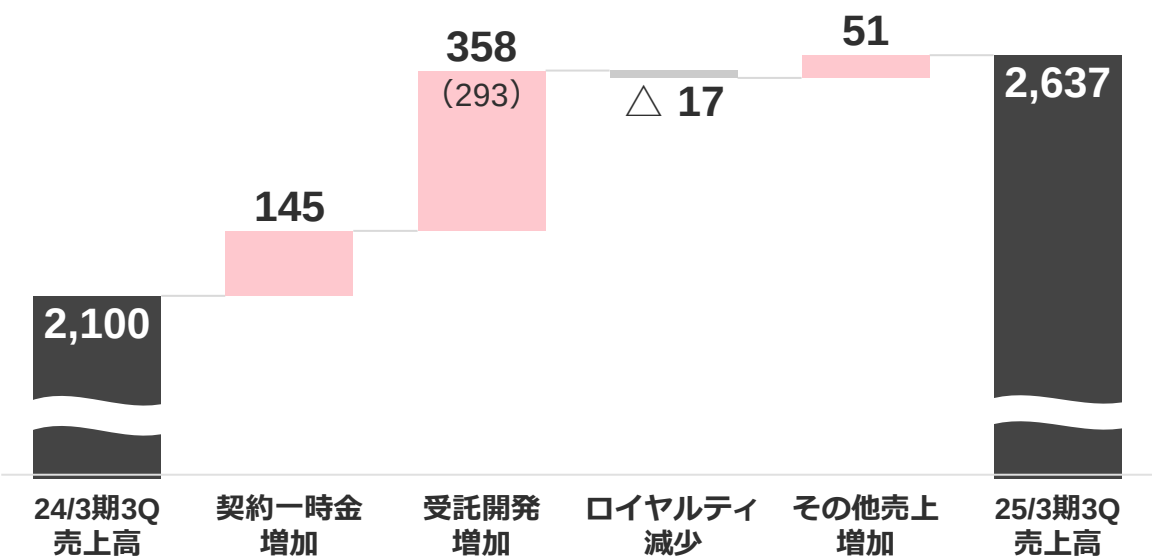
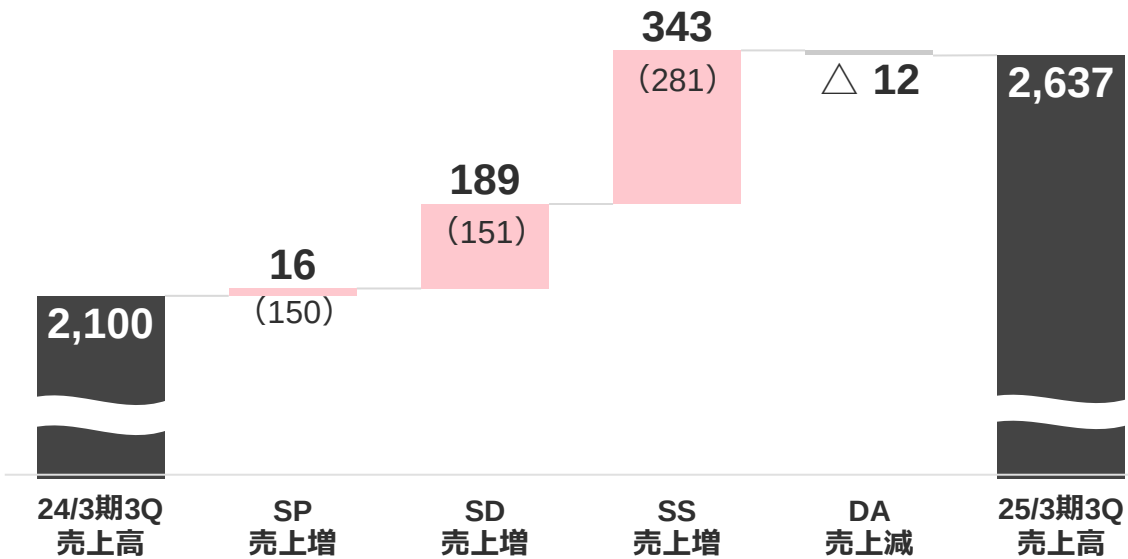
形態別

(注)SP=ソフトウェアプロダクト事業
SD=ソフトウェアディストリビューション事業
SS=ソフトウェアサービス事業
DA=データアナリティクス事業
()内はGS(グレープシステム)の売上

(単位：百万円)

()内はGS(グレープシステム)の売上

(単位：百万円)



対前年同期比：のれん償却前営業利益（セグメント別及び費目要因別）



SP事業の利益が減少したが、SD事業、SS事業の利益増により、対前年同期比で損失額微増
費目別では、人件費やその他費用（企業規模拡大に伴う社内整備費用など）の先行投資費用が増加

事業セグメント別

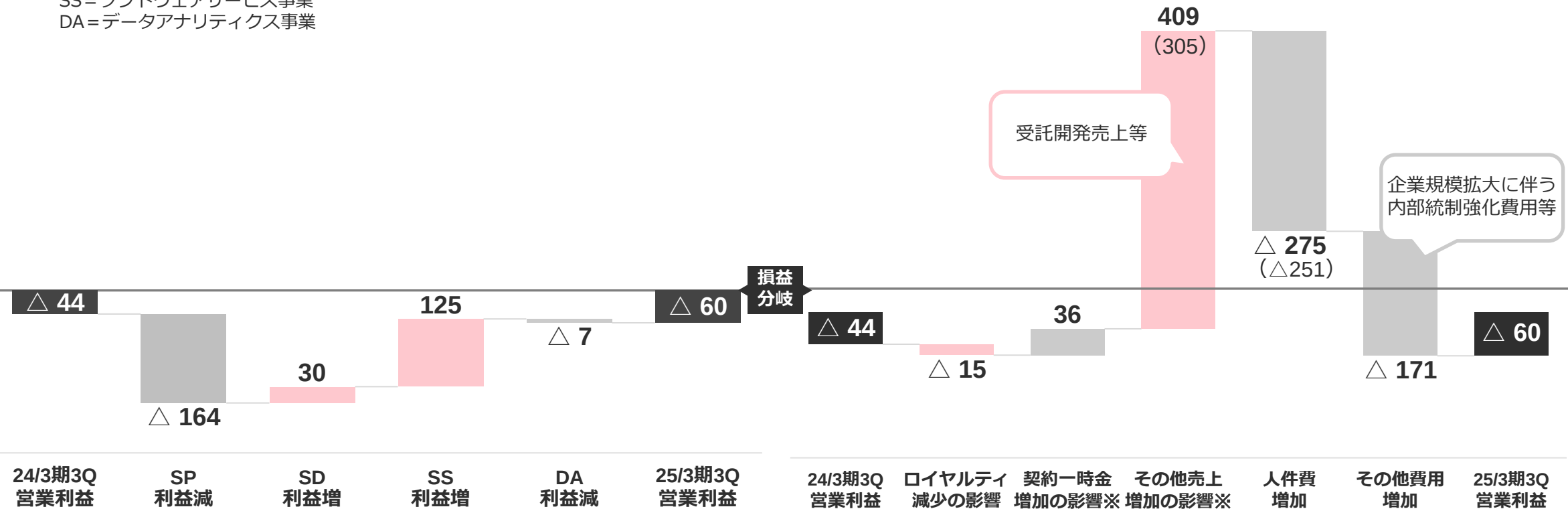
費目要因別

(注)SP=ソフトウェアプロダクト事業
SD=ソフトウェアディストリビューション事業
SS=ソフトウェアサービス事業
DA=データアナリティクス事業

(単位：百万円)

※は売上から仕入れを差し引いた金額
()内はGS(グレープシステム)の売上

(単位：百万円)



2023年10月に子会社化したGS社の4-9月売上加算が寄与し、対前年同期比537百万円の売上増（+25.6%）

(単位：百万円)	25/3期 Q3累計	24/3期 Q3累計	増減額	
売上高	2,637	2,100	537	
売上原価	1,589	1,213	375	
売上総利益	1,048	886	161	
販管費	1,179	973	205	
営業利益	△131	△87	△44	
営業外損益	△1	14	△16	
経常利益	△133	△72	△61	
特別損益	37	20	16	特別損益内訳
税金等調整前利益	△95	△51	△44	役員退職慰労引当金 戻入額 45
法人税等	16	9	7	投資有価証券評価損 △5
四半期純利益 ※	△112	△61	△51	固定資産除却損 △2

※四半期純利益：親会社株主に帰属する四半期純利益

連結貸借対照表（資産の部）

(単位：百万円)	25/3期 Q3	24/3期末	増減額
現金・預金	1,370	1,471	△100
受取手形・売掛金	554	1,050	△495
棚卸資産	61	20	40
前払費用	93	77	16
その他流動資産	34	29	4
流動資産	2,115	2,650	△535
のれん	371	442	△70
その他固定資産	581	639	△57
固定資産	953	1,082	△128
資産合計	3,068	3,732	△663

連結貸借対照表（負債・純資産の部）

(単位：百万円)	25/3期 Q3	24/3期末	増減額
買掛金	178	317	△138
短期借入金※	40	213	△172
未払金	93	93	△0
契約負債	130	148	△17
その他流動負債	92	191	△98
流動負債	536	964	△428
長期借入金	45	73	△27
退職給付引当金	223	276	△52
繰延税金負債	29	45	△16
その他固定負債	40	39	1
固定負債	338	434	△95
資本金・資本剰余金	2,936	2,936	-
利益剰余金	△854	△741	△112
その他純資産	111	137	△26
純資産	2,193	2,333	△139
負債・純資産合計	3,068	3,732	△663

※短期借入金：短期借入金 + 1 年内返済予定の長期借入金

(単位：百万円)

	通期 業績予想	25/3期 Q3累計	進捗率 (%)
売上高	4,022	2,637	65.6%
営業利益	40	△131	—
経常利益	38	△133	—
純利益	△22	△112	—

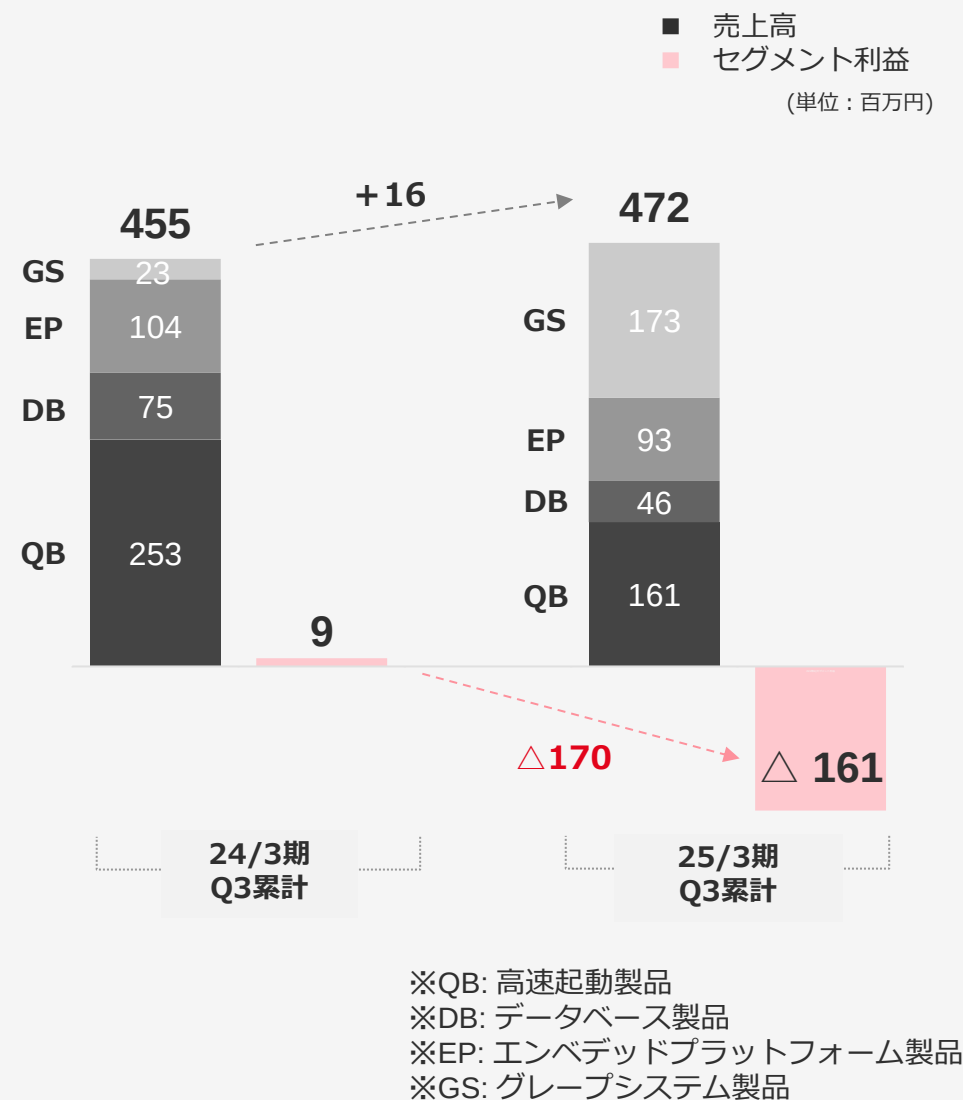
セグメント別概況と注力テーマ

■当期注力テーマ

- 高速起動製品における次世代プラットフォーム対応強化と海外展開による更なる事業成長
- IoT機器の脆弱性に対する懸念の高まりに応えるためのセキュリティ製品の販促・提案強化

■当期事業概況

- 対前年同期比で売上は増加、営業損益は減少
 - 一部顧客の製品生産終了・計画変更等による売上の減少
 - 売上増加要因は、GS社のロイヤルティ売上の増加
- 製品別概況
 - 高速起動製品：売上高・営業損益ともに前年同期減
 - 一部顧客の製品生産終了等によりロイヤルティ売上が減少
 - 他製品：GS社売上分を除くと売上高・営業損益ともに前年同期減
 - 一部既存顧客の製品生産計画変更の影響によりロイヤルティ売上が減少

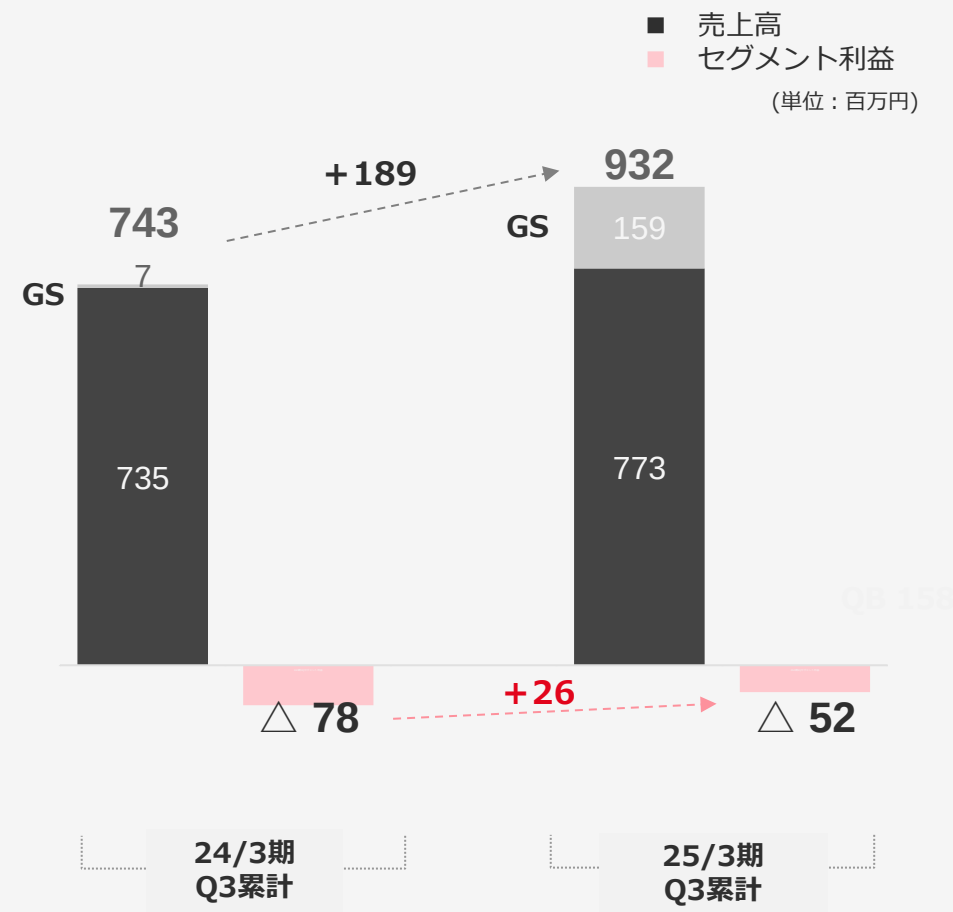


■当期注力テーマ

- ソフトウェア開発品質向上支援ツールの販売推進と、サイバーセキュリティ需要増に対応する脆弱性検証ツール・サービス事業の強化
- 既存の主力製品を中心に拡販展開
- 海外製新商品取扱いを推進

■当期事業概況

- 対前年同期比で売上増加、営業損益改善
 - 新規顧客への開発ライセンス販売、ロイヤルティおよび受託開発売上の増加
 - 既存顧客向けライセンス売上の前倒し
 - GS社取扱い海外製品の売上分の追加

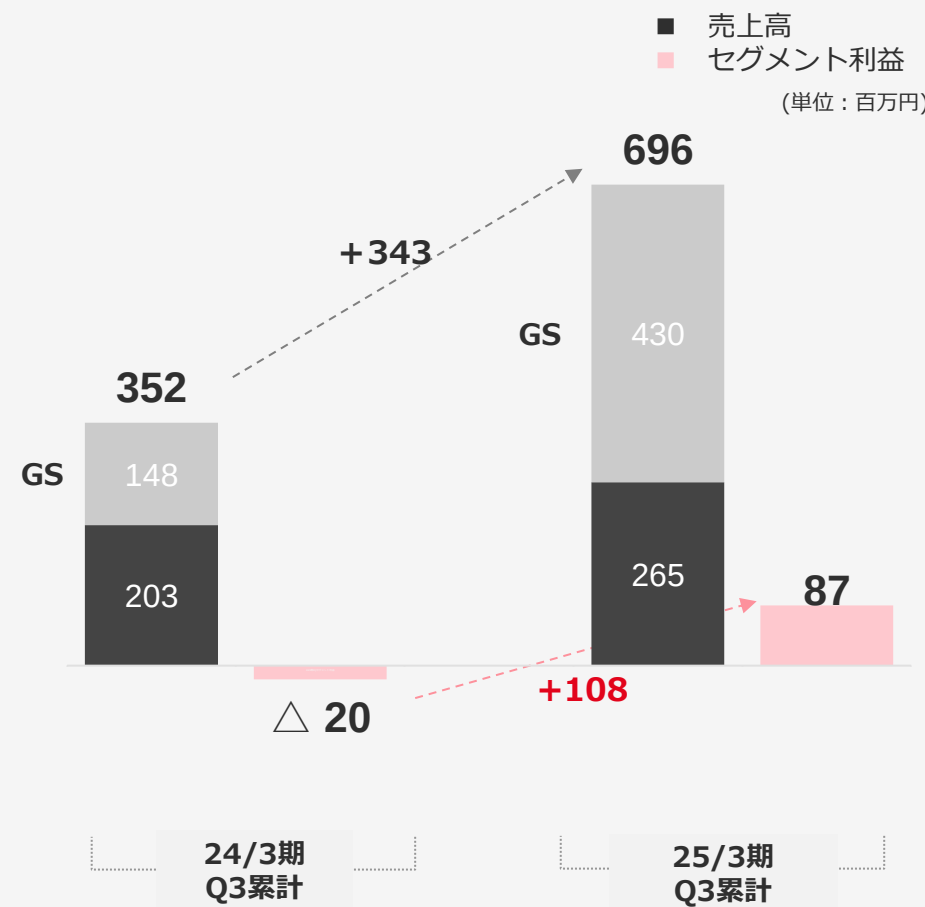


■当期注力テーマ

- 既存顧客との長期的な関係構築による安定した受託開発案件の引き合い
- GS社子会社化に伴う受託開発力強化により、製品販売関連の受託開発、製品販売を伴わない既存顧客からの受託開発案件を積極的に獲得
- 米Gracenote社との密な連携による既存収益の継続的確保と、協業提案による新たな取り組みと、車載機器のCD再生機能搭載率低下による「YOMI」ライセンスの減少を補うためのストーリーミングメディアなど新たな分野へのアプローチや受託開発案件の強化

■当期事業概況

- GS社の売上により対前年同期比で売上高・営業利益ともに大幅増
 - 受託開発売上が既存顧客を中心に好調
 - GS社売上が大きく寄与

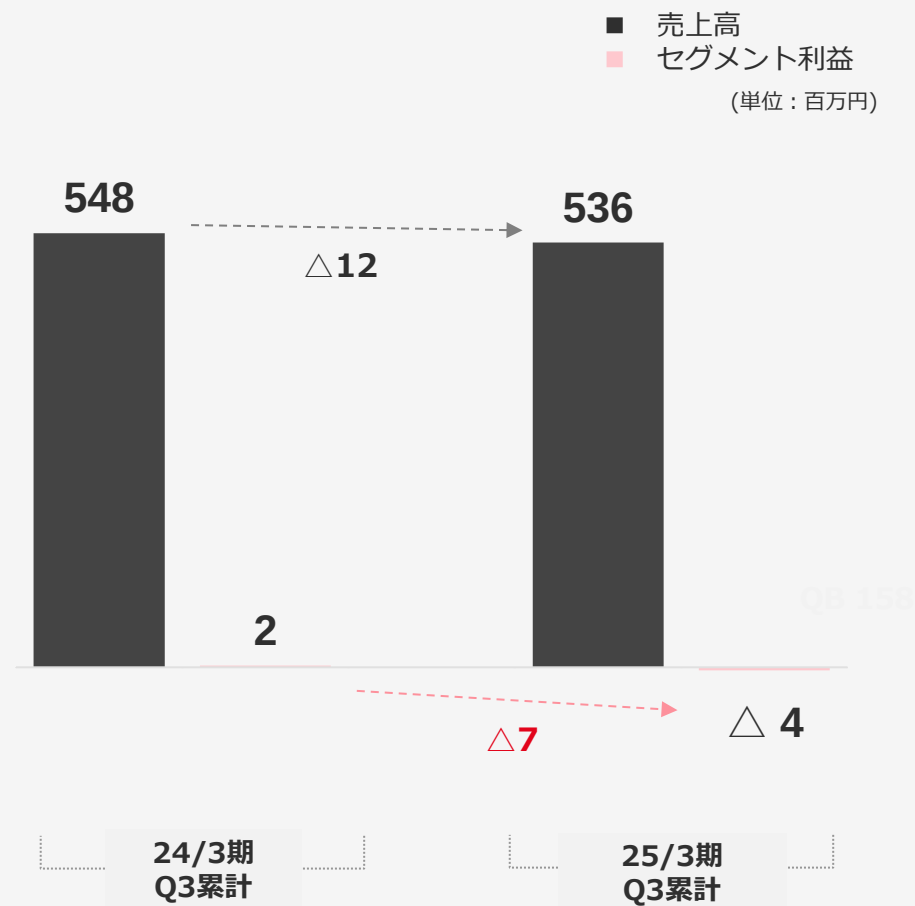


■当期注力テーマ

- 主力ソフトウェア製品（Origin、Stata）を中心とした教育機関、政府研究機関、一般企業への販売
- デジタルマーケティングおよび学会併設展示会による新規販売強化
- 既存顧客への販促強化による、サブスクリプション（年間使用料）、メンテナンスの更新率向上

■当期事業概況

- 対前年同期比で売上・営業損益ともに微減
 - Origin、MIPAR、Multi-Sigmaのライセンス売上増
 - 大学を中心とした学術機関において、Stata、Eviewsの契約を個人単位から組織単位へと切り替えたことにより、一時的にライセンス売上減



| トピックス

2024.12.6

ユビキタスAIが北九州市と共同でビジネス共創イベントを開催

11月13日に「北九州×スタートアップ」をテーマに北九州市と共同開催

ユビキタスAIが展開するビジネスプラットフォーム
HEXAGONの活動として、北九州市および地元北九州で活躍するスタートアップとの交流を通じて、北九州市が「スタートアップが活動しやすい都市」であることの理解を深めるとともに、北九州市をスタートアップの拠点として活用いただくことを目的として企画され、HEXAGONの賛同企業で北九州市でビジネスを検討している企業、地元のスタートアップ企業、地元の製造業系の事業会社を招待して開催されました。



<https://www.ubiquitous-ai.com/news/2024/004996.html>

2024.12.16

Android機器の起動時間を短縮するUbiquitous QuickBoot™、 ユーザー利便性を向上する新運用モードを提供開始

高速起動とユーザーの使いやすさを最適化する二つの運用モードを追加

当社の独自技術による、Linux/Androidの起動時間を短縮する高速起動ソリューション「Ubiquitous QuickBoot」のAndroid向けアドオンパッケージ最新版「Android Pack Release 3.0」を、2024年12月中旬より提供開始しました。

- 開発工数の削減
- 幅広いアプリケーションでQuickBootの導入が可能



<https://www.ubiquitous-ai.com/news/2024/004991.html>

HEXAGON Update - 取組状況

賛同企業・団体：**98** (2024/12/31現在、HEXAGON発表2022/6/22 ~ 30ヶ月、一部連携団体含む)

紹介による良い
「ご縁」のつながり

販売連携・事業連携
共同開発

資金調達・出資機会紹介

スタートアップ間連携

スタートアップ向け
支援プログラム





Ubiquitous AI